

建築資材メーカーとして、技術と文化の融合により「建築全体」を考える
YKK グループの建築物動画コンテンツ「考える建築」をウェブサイトで公開

YKK AP 株式会社（本社：東京都千代田区、社長：魚津 彰）は、YKK グループが富山県内に所有する建築物を紹介する動画コンテンツ「考える建築」を、YKK AP グローバルウェブサイトにて公開しましたのでお知らせします。

当社は、窓やドアなどの開口部を中心とした建材メーカーですが、その根底には「Art（建築文化）」と「Technology（技術）」の融合を追求しています。気候・文化に寄り添い、気候変動やエネルギー問題といった社会課題や人々の健康・ウェルビーイングにも向き合いながら、自社商品を YKK グループの建築物に採用し、建築が社会に果たすべき役割を検証しています。

この度、建築文化への貢献を目的に、社名の「AP（Architectural Products）」の「Architecture（建築）」に込められた、想いを形にする代表的な6つの建築を紹介する動画コンテンツ「考える建築」を公開しました。これらの建築を通して、当社のパーパス「Architectural Products で社会を幸せにする会社。」をどう実現しようとしているか、その想いをぜひご覧ください。

「考える建築」 <https://www.ykkapglobal.com/ja/technologies/thinking-architecture/>



■「考える建築」の概要

YKK グループの「技術の総本山」と位置付ける富山県の地には、多くの建築家との対話から生まれた、世界に誇れる建築群が広がっています。これらの建築を通して、エネルギー問題に挑戦するプロジェクトや、開かれたまちづくりへの貢献を行うことで、建築が社会に果たすべき役割を考え・実践している様子を紹介します。

<紹介する6つの建築物>

パッシブタウン：持続可能な社会の実現について考える建築

<https://www.ykkapglobal.com/ja/technologies/thinking-architecture/passivetown/>

黒部の自然エネルギーを最大限に活かし、快適でありながらエネルギー消費に過度に依存しない持続可能なまちづくりを目指す「パッシブタウン」。地域木材を活用した「たんぼ保育園」（第4街区）と、太陽光発電の電力を水素に変えて貯蔵することで年間を通じたエネルギー自立を目指す、北陸地域初の木造中高層集合住宅（第5街区）を紹介します。



YKK AP 技術館：人間と技術の共存について考える建築

<https://www.ykkapglobal.com/ja/technologies/thinking-architecture/technology-museum/>

「YKK AP 技術館」は、1959 年竣工の工場をリノベーションし、建築における「新と旧の融合」を鮮やかに体現した施設です。古い構造体の力強さと、自然光を取り込む現代の環境技術が融合したダイナミックな空間は、過去の技術の歩みを未来の価値創造へとつなげる YKK AP の姿勢を象徴しています。



YKK AP 30 ビル：ウェルビーイングについて考える建築

<https://www.ykkapglobal.com/ja/technologies/thinking-architecture/30-building/>

「YKK AP30 ビル」は、“杜の中のオフィス”をコンセプトに、建物そのものが働く人々の健康と幸福（ウェルビーイング）に寄与する仕組みを備えています。外装には 100%アルミリサイクル材のカーテンウォールを採用し、高い環境性能と意匠性を両立しました。これらの建築的工夫により、自然のゆらぎを感じられる空間を実現しています。



I-TOWN：地域とともに目指す賑わいづくりについて考える建築

<https://www.ykkapglobal.com/ja/technologies/thinking-architecture/i-town/>

社員寮の枠を超え、「地域とともに住まうまち」として計画された建築プロジェクト「I-TOWN」。周辺の低層住宅街の景観と調和するよう建物を分棟形式で配置し、敷地内の豊かな植栽や各棟をつなぐ大屋根のアーケードを地域住民の通り道や憩いの場として開放するなど、地域社会に溶け込むこれからの建築のあり方を体現しています。



YKK AP M&E センター：人間と技術の共存について考える建築

<https://www.ykkapglobal.com/ja/technologies/thinking-architecture/m-and-e-center/>

“人間と技術の調和”を掲げた「YKK AP M&E センター」は、通常なら隠蔽される構造や設備を「機能美」として捉え、積極的に空間デザインへ統合しています。45m の大スパンガラス屋根 や、細部まで露わになった結合部は、高度な技術を持つ本来の美しさを提示しています。



前沢ガーデンハウス：コミュニティについて考える建築

<https://www.ykkapglobal.com/ja/technologies/thinking-architecture/maezawa-garden-house/>

前沢ガーデンハウスは、世界中の人々が集う「大きな家」として構想され、社員と地域を結ぶコミュニティの核となっています。ホールの大階段に土間のような伝統的な象徴性を持たせつつ、障子や木材を用いた温かみのある空間が人々の交流を促します。また、YKK 創業者・吉田忠雄の理念を受け継ぎ、桜花園の一般公開や国際的な演劇祭の開催など、地域に根差した文化的な活動の場としても機能しています。

